

第19回男子アジア選手権

2020年1月16日～27日 クウェート

試合結果報告

1 月 20 日 (月)

JPN	VS	KSA(サウジアラビア)
16	前半	10
14	後半	12
30	合計	22

個人得点

No.	ポジション	名前	前半	後半	合計		
3	RW	柴山 裕貴博			1		
10	LW	杉岡 尚樹			1		
12	GK	岩下 祐太			0		
13	PV	笠原 謙哉			2		
14	CB	北詰 明未			0		
15	LB	部井久アダム勇樹			1		
18	LB	成田 幸平			1		
19	RB	徳田 新之介			1		
20	RB	渡部 仁			3		
21	LW	土井レミイ杏利			8		
25	RW	元木 博紀			3		
26	GK	久保 侑生			0		
27	PV	玉川 裕康			1		
29	PV	岡元 竜生			0		
31	LB	吉野 樹			6		
33	CB	東江 雄斗			2		
合計			0	0	0	0	30

戦評

アジア選手権3戦目。メインラウンド進出後、初戦の相手はサウジアラビア。グループリーグでは韓国を破り、1位でメインラウンドに進出、昨年の世界選手権(ドイツ・デンマーク)にも出場した強豪国の一つ。日本はGKに岩下。笠原、成田をセンター、2枚目に渡部と吉野、1枚目に元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣で臨む。

試合開始早々、DFと連携したGK岩下の好セーブを起点に、成田が速攻でカットインから技ありのスピッシュを決めて先制。対するサウジアラビアもゲームメーカーの37番ALABASが、日本のセンターDFが下がったところを見逃さずジャンプシュートを決める。

サウジアラビアの大型ポスト・10番ALIBRAHIM、6番ALTAWEELにボールを集めるプレーに対して、日本DFは序盤から苦勞するものの失点後にクイックスタートから笠原のポストなどで対抗する。

その後も土井のカットインやループシュート、渡部のパスカットから元木に繋いでの速攻、吉野、東江のミドルシュートなどで加点、徐々にリードを広げる。前半20分には土井が相手のエンブティーゴールにシュートを決めて12-7と5点差を広げる。ここでサウジアラビアがタイムアウトを要求。直後に玉川の速攻が決まり6点差となるが、日本はサウジアラビアのクロス攻撃に大型ポストを連携させる戦術に対して、前半だけで5本の7mTを与えてしまう。しかし、サウジアラビアのパワープレーの際にもGK岩下の好セーブによりピンチを凌ぎ、16-10の6点リードを奪って前半を終了する。

ハーフタイムでは、大型ポストに対するDFとOFのポイントについて意思統一をはかり後半に備えた。

後半5分、日本はシュートチャンスを出せるものの相手GKの好セーブやクロスバーに嫌われるなどして悪い流れが続き、その間にサウジアラビアに3連続得点を許してしまう。しかし、キャプテン土井がサイドから回り込んでミドルを相手ゴールに突き刺し、この悪い流れを止めることに成功。その後は畳み掛けるように部井久のミドル、元木のサイド、東江のカットイン、土井のサイド、笠原のポストで6連続得点、一気に流れを掴み、13分過ぎには23-14とリードを9点に広げる。

後半23分過ぎには徳田が7mTを落着いて決めるなど相手に主導権を握らせない戦いが続く。後半25分には吉野がミドルを決め、終了間際には岩下の3連続好セーブから、柴山が速攻を決めて試合終了、30-22で勝利をおさめ、メインラウンド初戦を飾った。なお、この試合のMOMIには吉野が選出された。

明日は、昨年10月に行われたオリンピックアジア予選で優勝、既に東京オリンピックの出場権を獲得しているバーレーンとの一戦。メインラウンド突破・準決勝進出に向けては明日も大切な試合。残された時間を最大限活用して明日のバーレーン戦に備えたい。

報告記入者 :

舍利弗 学